

「子ども・子育て新システム検討会議」 作業グループ第4回会合 平成22年4月1日	資料2
--	-----

## 幼稚園と保育所の制度見直しに関する意見

全国国公立幼稚園長会

はじめに

近年の子どもを取り巻く環境は必ずしも望ましいものとは言えず、安全・安心な教育環境は、多くの国民の願いでもある。また、少子化の進行や両親の就労状況の変化は、幼児期の教育の在り方に大きな影響を与えている。今後、高度情報化・国際化はさらに進むと考えられるが、幼児期から知・徳・体の調和の取れた「生きる力」をはぐくむという理念は一層重要になる。

本会は、幼稚園教育の充実・発展に尽くしてきた立場から、「子ども・子育て新システム」が真に子どもの最善の利益につながることを願い、この国の人材育成に関する考え方の基盤にたった幼児期の教育の在り方が検討されることを望むものである。同時に、「子どもに対して質のよい生育環境を整える」子育て支援であり、就労支援であってほしいと切に願い、以下に意見を述べる。

## 記

### 1 幼児教育の重要性

幼児教育の重要性について

- ・ 幼児期は、人間の生き方の基盤となる物事に取り組む姿勢の土台が醸成される時期
- ・ 教育基本法に幼児期の教育の重要性が示され、学校教育法に幼稚園が学校の最初に規定された
- ・ しかし、依然として社会的評価が高いとは言えない

幼児期の学びの特徴 ― 体験する中で、ゆっくりと感じ取りながら学ぶ時期

- ・ 自らかかわり、失敗したり繰り返しやってみたりする中で、ものごとの仕組みを感じ取り、技能を獲得し、理解していく（→ 自らかかわる喜び＝生きる喜び）
- ・ 多様な人とかかわり → 多様な反応・刺激 → 多様な価値観・発達を促す

生涯にわたる人格形成の基礎を培う学びの視点をもった環境の必要性

- ・ 集団の中での豊かな学びが期待される3歳から
- ・ 専門性の高い教員の必要性

### 2 幼保一体化の認定こども園

少子化の進行、男女共同参画の推進等に伴う就労促進を受けて保育ニーズの拡大

幼稚園機能と保育所機能を一体化した認定こども園制度の確立

- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園いずれの施設でも、幼児期にふさわしい生活の展開によって、一人一人の幼児が豊かな学びの体験を得られることを目指す
- ・ 幼保の伝統は互いに異なる。教員も保育士もそれぞれの専門性を生かし、幼児の生活を保障し、環境を整え、統合的な保育のあり方を考えていくことが重要

認定こども園における乳幼児保育及び幼児教育の充実への期待

- ・ 幼稚園・保育所の設置状況は、地域によって異なっている。しかし、今後はすべての地域に0～2歳までの保育の場や機会を保障するとともに、3～5歳の子どもに幼児教育の場や機会を保障することが求められる。したがって、幼稚園や保育所のみ地域にあっては、地域の実状に即して認定こども園を設置するなどして、乳幼児保育や幼児教育のいずれもが充実することを期待する。

幼保連携型の認定こども園への期待

- ・ 子どもにとって望ましい生活環境、生活スタイルの追求

### 3 子育ての現状

地域による格差

経済格差

子どもの育ちの危機

- ・ 子どもの生活環境の変化は、子どもの心や体の成長に大きな影響を与えている
- ・ 子ども同士で安全に遊べる場がなくなっている
  - いつも安全確保のために保護者が見守っていなければならない → 保護者の負担大
  - コンピュータゲームなど、体を動かす事が少なくなってきた生活
- 無駄のない安全確保      子どもの心身の発達への影響      子どもの育ちの危機
- ・ 園庭開放を活用する保護者の姿（子育ての喜び共感と開放感、子ども理解）      地域の基盤
- ・ 子どもの群れ遊びの減少
  - 群れ遊びの中で培われる様々な人格形成の基盤（コミュニケーション能力、規範意識等）
  - 切磋琢磨、葛藤体験の機会の減少（子ども社会のファジーな世界の意味）
- ・ 学力向上や体力向上の重点化
  - 優秀さの偏重、価値観の一元化      一方向的な目標への努力と結果
- 子育てに悩む母親の増加
- ・ 子育てに楽しさを見出せない母親の姿やうつ傾向の増加
- ・ 子どもの子育てに父親がかかわっている時間の短さ
- ・ 親の過保護・過干渉・放任・児童虐待の増加
- 就労支援に偏る子育て支援の現状 —— 子どもが子どもらしく生きることの難しさ
- ・ 望ましい教育環境の論議より、就労支援が先行する現状
- ・ 経済性・効率性優先の施策
- ・ 子どもの育ちの危機を回避する必要性 = 「子どもに対して質のよい生育環境を整える」
- 保護者の「子育てに関する学びの場や機会」の重要性
- ・ 周りに子育てのモデルがない
- ・ 子どもの成長に必要なことは何か、伝承されない      親が親として育つ場の減少
- ・ マニュアル本は便利だが、個別事情に的確に対応することは難しい
- 困難や失敗を避ける生活の危うさ —— 適当な混乱、失敗、葛藤は、子どもの心を育てる  
（例 未就園児保育での保護者の言葉 「こうやって追いかけてこするのは、大事？」など

### 4 次代を担う人づくりの根本的な対策として

子どもの育ちの視点から

- ・ ゆったりとした時間の流れの中で、親子のかかわりや地域の人々とのかかわりが必要
- ・ 「人間らしく生きる」ことができる社会の実現を！
- ・ 子育て家庭が、心豊かに生きる生活時間の確保
- ・ 子どもが子どもらしく生きる環境【教育的環境】の必要性
- ・ 父親が子育てに参加しやすい就労環境・生活スタイルの実現
- ・ 父母ともに育休がとりやすい社会の支援、風土（制度はあってもとりにくい現状）

### 5 子育て家庭は、地域社会づくりに大きな貢献

幼稚園・保育所に通う親子が社会とどのようにかかわり、地域づくりにいかに貢献しているか

- ・ 各家庭や学校・施設・企業等が互いにかかわることで地域のコミュニティができる

幼稚園に通う親子      幼児期の教育は幼稚園で、または自宅で子育てをを考える家庭

- ・ 幼稚園降園後、親子は、買い物、銀行、図書館などへ行き地域社会の中で生きる

→ 地域コミュニティをつくる基盤

- ・ 子育て仲間と直接的なかかわり・コミュニケーション → 社会をつくる  
= 子育てをしながら、親子で地域に直接かかわりながら社会づくりに貢献
- ・ 土日の家族のかかわり、地域とのかかわり

保育所に通う親子 就労し、子育ては保育所等の支援を得てと考える家庭

- ・ 親が就労し、親子の短い時間のかかわりの中で、日々子どもの成長を確認し子育ての喜び
- ・ 所属する組織がつくる地域の中で生きる → 組織同士のつながりが基盤の地域づくり
- ・ 子育て仲間と保育所を介してかかわる、或いは電話やメールで間接的なかかわり  
= 親が就労して、組織の中で活躍しながら社会づくりに貢献
- ・ 土日の集中的な家族のかかわり、地域とのかかわり

様々な価値観をもった家庭が地域と多様なかかわりをする姿が存在することが、変化に対応できる底力のある社会や国家づくりにつながる。

- ・ 昼間（人々の活動する時間に）地域に子どもや子育て中の親子の姿が見られなくなり、高齢者や仕事に就けない人のみで構成される地域では、文化やコミュニティが維持・発展できるであろうか？ 地域の活力衰退の懸念
- ・ 地域社会に地域の子どもの見守り育てようとする風土の消失 社会基盤の崩壊
- ・ 親が子どもとかかわる時間を十分確保し、日々子どもの成長を確認しながら子育ての喜びを味わえる環境をつくっていくのは、社会の責任

親子のかかわりの場や機会を保障する重要性（園庭開放など）

幼児期に大人がしっかりとかわっていかないと、子どもの未来・国家の未来を大きく左右

- ・ 子どもを取り巻く環境と向き合い、望ましい生育環境・教育環境を創っていくことが不可欠

## 6 多様な価値観、生き方が認められる社会づくり 国民の責任ある選択

子育てと仕事の両立を可能にする社会・環境づくり

- ・ どのような社会でも、子どもと親がかかわる時間の確保は、必要
- ・ 地域の実情や収入やライフスタイルに応じて、自らが選択し実現できる国民の育成
- ・ 父親が子育てにかかわれる就労環境づくり、ワークライフバランスを大切にする国民の意識の醸成などについて、関連する省庁が連携して有機的に機能する施策に
- ・ 子育てへの共感的理解や子育てを支える社会機運の醸成

責任ある子育て方法の選択と実現への努力

- ・ 保育・教育時間の長さや子育て・生き方の選択に当たって、子どもの発達の状況や見通しを考慮して、親子にとって最善の選択ができるようシステムの構築
- ・ 選択した子育て方法が子どもにとって最善となるように実施することへの努力、及び親自らが選択した結果への責任の意識化

## 7 保護者が選択できる多様な幼児期の教育への期待と今後の幼稚園の課題

幼児教育の質の向上につながるように

- ・ 多様化する幼児教育施設の中で、幼稚園・保育所・認定こども園いずれの施設でも確実に教育活動が展開されるような仕組みづくり
- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針の趣旨に沿った教育活動の充実
- ・ 教育の質を高めるための組織や研修の重要性
- ・ 教員、保育士等、幼児期の教育にかかわる人の合同研修の機会や組織、予算措置
- 教師・保育士の資質向上を図る研修制度の重視
- ・ 子どもの友達関係に悩む保護者、放任しがちな保護者にも対応できる研修制度の確立

- ・ 多様化する保育ニーズに答えていくためにも、高い専門性が必要である。幼稚園教諭は養護の部分の、保育士は教育の部分の専門性を高めていく。
- ・ 今後、幼稚園も保育所も幼児教育を充実させていくことが重要である。幼稚園教諭は保育という営みを進めてきた教育者として、実践の責任を果たしていくことが大事。
- ・ 教育活動の質と教員の力量の高さという教育財産をもつ国公幼は、幼児教育に関する情報発信を積極的にする役割認識

#### 幼保と小学校教育との接続

- ・ 小1問題への対応の必要性。幼児期の教育と小学校教育の接続の重要性。（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成）
- ・ 保育士、幼稚園・小学校の教諭の連携、協力ができる体制づくり
- ・ 教科学習的な方法ではなく、幼児期にふさわしい教育活動のあり方についての周知
- ・ 幼児期の「学び」のスタイルの確保

#### 保護者への啓発

- ・ 子育てを他人任せにするのではなく、子どもの心身の発達にとって最もふさわしい教育環境をつくるための子育て支援（親教育）の充実

#### 財政の課題

- ・ 保護者が、自分の生き方・子どもの生き方（＝親子の生き方）を安心して選択できる社会づくりのための財政措置を十分検討していただきたい
- ・ 保護者の多様な選択に対応する保育所・幼稚園・認定こども園への人的配置を！